女性自殺 2年連続増

全体は2万1000人、高止まり

昨年

2021年の女性の自殺者数が7068人（前年比42人増）に上り、2年連続で増加したことが15日、警察庁の自殺統計（確定値）に基づく厚生労働省のまとめで分かった。男性は1万3939人（同116人減）で12年連続減。全体は2万1007人で前年より74人減ったものの、新型コロナウイルス流行前の19年より838人多く、高止まりとなっている。

厚労省自殺対策推進室は「さまざまな場面でコロナの影響が続いているとみられる」と分析。2020年に過去最多の499人だった小中高生が26人減り473人となったことは「依然として高水準。注視する必要がある」としている。

女性の自殺の動機・原因は「健康問題」が最多で、前年比144人減の4375人。次いで「家庭問題」が65人増の1357人で、内訳は「夫婦関係の不和」223人、「家族の将来の悲観」215人など。「経済・生活問題」も29人増えて454人に上り、うち「生活苦」が185人と最も多かった。

男性を含めた全体でも経済・生活問題が160人増の3376人、家庭問題が72人増の3200人だった。

年代別では50代3618人、40代3575人、70代3009人の順に多く、50代が193人増、20代も90人増の2611人と増加が目立った。

小中高生の内訳は、小学生11人、中学生148人、高校生314人。うつ病などの精神疾患や学業不振、親子関係の不和が多かった。

人口10万人当たりの自殺者数（自殺死亡率）が多かった都道府県は、青森（23・7人）、山梨（同）、新潟（21・3人）など。東日本大震災に関連した自殺者は6人で、前年より1人増。地域別では宮城が4人、岩手と福島が各1人だった。

◇

厚生労働省こころの健康相談統一ダイヤル☎0570・064556。スマートフォンでQRコードを読み込むと同省サイト「まもろうよ　こころ」につながります。

(C)日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。